

The 68<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Stomatological Society

第68回NPO法人

# 日本口腔科学会学術集会

プログラム・抄録集

— 口腔科学の新世紀 —

**会期** 2014年(平成26年)年5月7日(水)~9日(金)

**会場** 京王プラザホテル 東京都新宿区西新宿2-2-1

**会長** 小宮山 一雄 日本大学歯学部病理学講座 教授

渡辺孝史

学会創立  
101周年



## 1-E-4

### イヌ前頭洞を用いたサイナスリフト実験における新生骨との骨結合について

神奈川県立大学大学院 3D画像解剖学講座

渡辺 孝夫

【目的】 イヌ前頭洞に洞粘膜挙上・即時インプラント埋入術を施し、挙上洞粘膜下スペース内に突出した2種類の表面性状の異なるインプラントと周囲に増殖した新生骨との間の骨結合を組織学的に観察し、インプラント表面性状が及ぼす影響を検討した。【方法】 閉経後雌ビーグル6匹、HAコーティングチタンインプラント8本 (HA群; A社, 日本, B社, USA), 粗面チタンインプラント4本 (RS群; C社, スウェーデン) を使用した。補填材は使用しなかった。観察期間は3か月および6か月とした。インプラントを含む前頭洞の研磨HE染色標本を作製、光学顕微鏡下、インプラント界面を観察した。【結果】 インプラント周囲の新生骨高径は洞壁からHA群; 3か月後同9.1mm、6か月後同9.7mm、およびRS群; 3か月後同7.3mm、6か月後同6.8mmであった。インプラント表面径に対するそれを覆う新生骨の割合はHA群; 3か月後同64.3%、6か月後同78.5%、およびRS群; 3か月後同49.0%、6か月後同42.0%であった。インプラントを覆っている新生骨の骨インプラント接触率 (BIC) は、HA群; 3か月後同79.9%、6か月後同79.9%、およびRS群; 3か月後同3.8%、6か月後同0.0%であった。インプラントに骨結合した新生骨接着径 (LCB) は1単位当たりHA群; 3か月後同1.0mm、6か月後同0.8mm、RS群; 3か月後同0.1mm、6か月後同0.0mmであった。【考察および結語】 インプラント周囲の新生骨高径およびインプラント表面径に対するそれを覆う新生骨の割合は、HA群とRS群との間に大きな差はみられなかった。一方、BICおよび新生骨LCBは、HA群とRS群との間に大きな差がみられた。以上より、挙上洞粘膜下スペース内に突出したインプラントと周囲に増殖した新生骨との間の骨結合はインプラント表面性状の違いに影響を受けると考えられた。

## 1-E-5

### 当科におけるインプラント新来患者の治療難易度に関する臨床統計学的検討

名古屋市立大学病院医学研究科 生体機能・構造医学専攻 感覚器・形成医学講座 口腔外科学分野

倉田 雅志, 金山 健夫, 土持 師, 重富 俊雄

【目的】 近年の高齢化社会で、インプラント治療を希望する患者においても基礎疾患の存在、高度顎堤吸収、咬合崩壊など様々な種類の問題を抱える患者が増えてきた。そこで、当科におけるインプラント新来患者の全身所見、顎堤の解剖学的所見および補綴学的所見から治療難易度を評価し、統計学的検討を行ったのでその概要を報告する。【対象および方法】 2009年から2013年までの5年間に当科でインプラント治療を希望した患者を対象とした。インプラント治療術前に得た問診、口腔内写真、研究用模型、パノラマX線、CTをもとに、患者の全身状態、顎堤の骨質・骨量、咬合状態などを評価し、治療難易度の検討を行った。【結果】 126名の患者が対象となり、男性56名、女性70名であった。初診時年齢は35歳から78歳で平均56.5歳であった。高血圧、心疾患、糖尿病、骨粗しょう症など基礎疾患を有する患者が多数いたが、主治医との対診の結果インプラント治療適応外と判断された患者は存在しなかった。顎堤の骨質・骨量が乏しく、骨増生処置が必要と診断された患者は87名 (69%) で、これらの患者に対しては垂直的骨造成術や上顎洞底挙上術を行った。咬合支持数や欠損様式から補綴学的難症例と診断された症例は17%であった。これらの患者に対してはインプラント治療前にテンポラリークラウンや仮義歯を用いて咬合高径・水平的顎位・咬合平面の修正を行った。【結論】 当科でインプラント治療を希望した患者は多様な問題を抱えていた。インプラント治療を安全確実に長い期間に良好な予後を得るためには、全身所見、解剖学的所見、補綴学的所見などから難易度を総合的に評価し、適切な治療計画を立案することが重要であると思われた。

・全身所見  
・咬合  
・顎位